

85周年会第45回まち歩き

大正期の歴史を探して 川越まち歩き

城下町、蔵造り商家で知られる「小江戸」川越（埼玉県）のバスと徒歩でのまち歩きです。今回はそれに加えて、大正期の商業建築と川越まつりの山車に焦点をあてました。

日時：2014年9月27日（土）
集合時間：12時50分
集合場所：東武東上線川越駅改札横の
観光案内所前
参加者：25名参加
案内人：今西光男（018G）
懇親会：「東松山の味噌だれ焼きとん」
若松屋

<まち歩き>：

■まち歩き行程

川越駅（バス）→喜多院（仙波東照宮・喜多院書院・五百羅漢）→（バス）菓子屋横丁→まつり会館→商人屋敷・時の鐘→八十五銀行（埼玉りそな銀行川越支店）・山吉ビル→蓮馨寺→中原町山車倉庫→若松屋

参加者 参加者：25名

歩数：今回の歩数：5500歩

<懇親会>：

参加者：24名

<スタート>

それではスタートです。写真を見ながら楽しんでください。なお、説明には案内人の018G 今西光男さん作成資料から引用しています。写真提供は、018I 浦城信夫さんと018E 俵一雄さんに協力してもらいました

① 川越駅（バス）

バスは東武バスの「小江戸名所めぐり（1日券300円）」を使用。新興のイーグルバス「小江戸巡回バス（1日券500円）」を間違えて購入された方が約1名。（イーグルバスはレトロな車体で人気だが、20名の団体では乗れなかった。）

<解説：川越>川越は池袋から東武東上線で30分、西武新宿から西武線で50分、JR埼京線で新宿から55分、埼玉県の南西部、名前の通り、荒川・入間川・新河岸川にはさまれた川越台地にあります。喜多院はその台地の南東部で、弥生期まではここまで東京湾が入り込んでおり、台地の外れには貝塚や弥生土器の破片が見つかります。明治初期に、お雇い外人で大森貝塚を見つけたモースもしばしば、川越に調査に来ています。

② 喜多院（仙波東照宮・喜多院書院・五百羅漢）

喜多院前でバス降車後にこれからの案内説明を聞き、喜多院の星野山（せいやさん）門前からまち歩きがスタートした。



案内人はきめ細かく説明をしてくれている。



仙波東照宮。門扉が閉ざされており、その間から撮影。



喜多院の境内には、「家光公お手植えしだれ桜（二代目）」があった。



東照宮の後、喜多院書院を拝観。喜多院書院は入館料400円が特別に半額になった（檀家である案内人の交渉力）。耐震工事中だったが、拝観できた。

家光が使用した厠もあった。



りっぱなお庭（遠州流庭園枯山水曲水の庭）があった。



その後、境内の五百羅漢に。それより団子と。五百羅漢横の茶屋で、団子、味噌こんにゃくをほおぼる人も。喜多院五百羅漢を見る。自分に似たのはないかな……と思いながら見学する。……喜多院が時間オーバーで、途中を端折る。



<解説：喜多院>

喜多院は天台宗の古刹、江戸初期に天海僧正が再興し、「東叡山」の号が付けられました。（上野寛永寺が建立されると「東叡山」の号を寛永寺に譲り、「星野山喜多院」になった）。天海は家康・秀忠・家光の徳川3代の政治指南役で、108歳まで生きた怪僧です。家康、家光はしばしば「鷹狩り」と称して、川越を訪ね、天海と会っています。家康が駿府で死んで、日光東照宮に葬られる時、途中、江戸城には寄らず、駿府の久能山から川越をきて、天海が喜多院で4日間の法要をしたうえで、日光に埋葬されています。喜多院南にある仙波東照宮はその法要を機に、家光が建てたものです。浮世絵の開祖とみられる岩佐又兵衛の「三十六歌仙」（重文）が収蔵されていました

（いまは東京国立博物館に所蔵されています）。又兵衛は織田信長に荒木村重一族が誅殺された時、たったひとり生き延びた村重の子です。寛永の川越大火で喜多院が消失した際、家光が江戸城にあった書院をそっくり喜多院に移築し、書院にしました。現在残っている「家光誕生の間」「春日野局の間」などです。家光の乳母・春日野局は明智光秀の係累、天海にも光秀の生まれ変わりという伝説があり、又兵衛もそのながれで抜擢されたとの説もあります。

③ 菓子屋横丁（元町）

むかしなつかしい駄菓子などがあり、お土産を買う人も。20軒余りの店があるが、最近は京都や鎌倉に出店している外部資本（観光業者）の経営する店が増えた。



④ まつり会館（元町）

「まつり会館」で山車の構造を解説してもらおう。一台造るのに5000万円から一億円かかる。



川越城主で老中だった松平伊豆守信綱が「川越にまつりがないのはおかしい」といって、川越大火のあと、鎮守社である氷川神社に神輿を奉納したのが始まり。その後、川越商人たちは神田明神、赤坂山王の天下祭にならって、豪華な山車をまちまちで作り、競いました。川越の山車は城内に入れるように、上の2階、3階部分が1階に収納できる仕組みになっています。「まつり会館」（市営）の本物の山車3台とその構造などを解説してもらいました。

⑤ 商人屋敷・時の鐘（幸町）

黒壁、耐火つくりの蔵造り商家に点在するのが、大正・昭和期の建築です。



蔵前の米相場や横浜の絹相場を一時は支配したという川越商人たちは競って、商家だけでなく、邸宅を店の裏に立てました。



川越といえば、「時の鐘」。

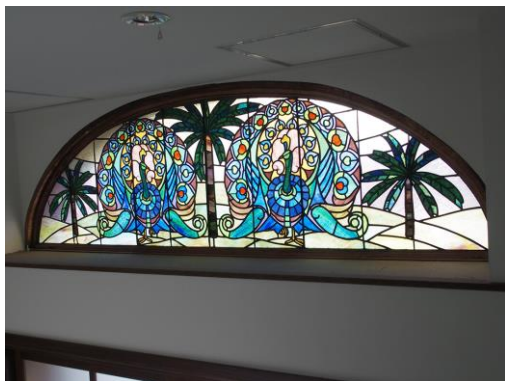


⑥ 八十五銀行（埼玉りそな銀行川越支店）（幸町）・山吉ビル（仲町）

また、大正期になると、まちの中心には近代的なビルもつくりました。丸い尖塔のある「旧国立八十五銀行本店」（埼玉りそな銀行川越支店）



や「旧山崎邸（老舗菓子屋「亀屋」の五代目「山崎嘉七氏」の隠居所）」、「山吉デパート」などです。いずれも建築家保岡勝也（1877－1942、東大卒後、三菱に入社、丸の内の赤煉瓦オフィス街を初め多くの住宅建築を手がけた）の作品です。日本庭園と和洋折衷の「旧山崎邸」は来年まで改修工事中で見学できませんでしたが、「山吉デパート」は、所有者の許可を得て、ちょっぴり見せてもらった。埼玉唯一の地方百貨店「丸広百貨店」の前身で、埼玉最初のデパートがあったところ。屋上にはアドバルーンや簡単な遊園地になっていた。今はその保刈家が歯科医院を経営。古いステンドグラスがなかなか良い。



仲町（なかちょう）から旧市街（幸町）
……電線がない。



旧市街には電柱がない（埋設されている）が、新市街（連雀町）は電柱電線だらけ。



案内人の実家の屋上に登らせていただく（番外だったみたいです）。



川越商工会議所も山吉ビルと同じ時期に立てられた。現在も商工会議所だ。

その正面入口の階段で記念撮影。



⑧ 中原町山車倉庫



⑦ 蓮馨寺



蓮馨寺（れんけいじ）でおびんずるさまにさわる。

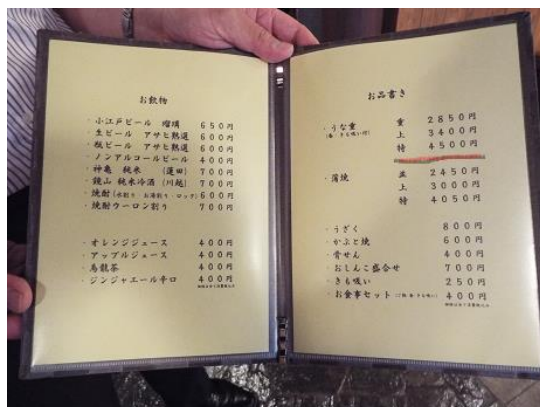


⑨ 懇親会若松屋

途中、川越でいちばんおいしいといううなぎ屋さん小川菊（おがきく）。中に入って調べてきた人によると、うなぎ重は4500円だったとか？！



店の中に入って写真を撮って確認をしたようだ。



打ち上げは「東松山の味噌だれ焼きとん」の人気店「若松屋」。みなさん、例によって、盛大に食べ、飲みました。



別名「かしら屋」。焼きとんでも「かしら肉」を味噌だれで出すのが自慢。注文をしなくても串がなくなると「かしら」が次々に出てくる。1本130円、吞んで食べて3000円ですべて収まりました。

生ビールよりホッピーが人気だった。

「味噌だれの焼とん」はもともと東松山発祥だが、いまは川越の「若松屋」の勢力が強いよう。川越本店につづき、大宮、浦和、赤羽と支店を広げ、この春、東京・新橋の烏森に新橋支店をオープンしたそうだ。



以上



